

○上映作品および参加者数

月日	上映作品	参加者
4月30日	ドキュメンタリードラマ「命のビザ 六千人のユダヤ人の命を救った日本領事の決断」	75名
5月28日	ドキュメンタリー映画「花はどこへいった トナム戦争のことを知っていますか」	59名
6月25日	映画「フェイトレス -運命ではなく-」	68名
7月30日	ドキュメント「パールハーバー 日米の運命を決めた日」	111名
8月27日	映画「菩提樹」	46名
9月24日	映画「続・菩提樹」	39名
10月29日	映画「独裁者」	20名
11月26日	映画「二十四時間の情事 ヒロシマ・モナムール」	51名
12月24日	演劇「南の島に雪が降る」	57名
1月28日	映画「氷雪の門 樺太1945年夏」	34名
2月25日	ドラマ「アンネの日記 ～The Diary of Anne Frank～」	71名
3月18日	映画「陽光桜」	72名

(9) 平和の学校あかり・ピーススクール

○開催日時

平成 29 年 (2017 年) 5 月 27 日、6 月 4 日、7 月 30 日、8 月 1 日、8 月 6 日、8 月 9 日、8 月 14 日、8 月 19 日、8 月 26 日、10 月 8 日、11 月 11 日、12 月 9 日、平成 30 年 (2018 年) 2 月 17 日、3 月 11 日の 14 日間

○会員数 63 名 のべ参加者 284 名

○事業内容

① 「難問！クイズラリー (開校講座)」(5 月 27 日)

全 14 回の講座の開校講座を行った。本事業の説明の後、ミニ平和学習や館内見学、バックヤードツアーを実施した。続いて、館内の展示を回るクイズラリーを行い、最後にオリジナル缶バッジづくりも実施した。



バックヤードツアーの様子



クイズラリーの様子

② 「育てて食べよう戦時食 I」(6 月 4 日)

あいとうマーガレットステーション隣接農園でサツマイモの苗植えを行った後、戦時中に食べられた野草を祈念館周辺で探すネイチャービンゴを行った。最後に戦時食グループのボランティアの方が作った戦時のおやつを試食した。



サツマイモの苗植えの様子



戦時のおやつの試食の様子

③ 「戦時食（すいとん）作り」（7月30日）

戦時食の代表である「すいとん」を調理して試食した。ボランティアの戦時食グループの皆さんの協力で愛東コミュニティーセンター調理室を借用して実施した。戦時の食についての話も聞いた。



すいとん調理の説明の様子



すいとん調理体験の様子

④ 「歴史学習&想像力アップ講座」（8月1日）

歴史学習では日本が歩んだ戦争への道を学習し、創造カード遊びでは、2枚の異なるイラスト入りのカードから共通点を見つけ出してペアを作り、ものの見方を学んだ。



歴史学習の様子



創造カード（カルタ）遊びの様子

⑤ 「戦争体験お話し会（広島原爆体験者）」（8月6日）

実際に被爆された方を講師に招き、インタビュー形式でご自身の体験をお話ししていただいた。最後には、質疑応答の時間も用意した。

戦争体験お話し会の様子



⑥ 「戦争体験お話し会（長崎原爆体験者）」（8月9日）

実際に被爆された方を講師に招き、ご自身の体験をお話ししていただいた。最後には、質疑応答の時間も用意した。



戦争体験お話し会の様子

⑦ 「戦争意識インタビュー体験」（8月14日）

あいとうマーガレットステーションの利用者と来館者（戦争体験聞く会参加者）にアンケート調査を行った。56名に質問し、回答を得ることができた。



あいとうマーガレットステーションでのインタビュー体験の様子



来館者へのインタビュー体験の様子

⑧ 「新聞記事切り抜き作品作り」（8月19日）

中日新聞社 NIE 事務局の方を講師に招いて実施した。戦争関連の記事を集めて、自分の決めたテーマに合わせて作品を制作した。



制作の様子



制作の様子

⑨ 「戦跡めぐり in 舞鶴」(8月26日)

舞鶴に残る戦争の跡をバスで巡った。舞鶴引揚記念館では、学芸員の方にシベリア抑留についてお話をしていただいた。舞鶴赤れんがパーク、海軍記念館、海上自衛隊北吸棧橋を見学した。



舞鶴引揚記念館での平和学習の様子



海上自衛隊北吸棧橋の見学の様子

⑩ 「育てて食べよう戦時食Ⅱ」(10月8日)

あいとうマーガレットステーション隣接農園でサツマイモの収穫をした後、そのサツマイモで戦時食を作る調理、試食体験を実施した。



サツマイモ収穫の様子



戦時食調理体験の様子

⑪ 「滋賀の戦跡めぐり in 湖北」(11月11日)

滋賀県の湖北に残る戦争の跡をバスで巡った。米原列車避難壕では、米原市岩脇町づくり委員会の方に案内をしていただいた。その他、迷彩倉庫や大依山射撃場跡、国友鉄砲資料館などを見学した。



米原列車避難壕の見学の様子



大依山射撃場跡（監的壕跡）の見学の様子

⑫ 「戦時のくらし体験」

(12月9日)

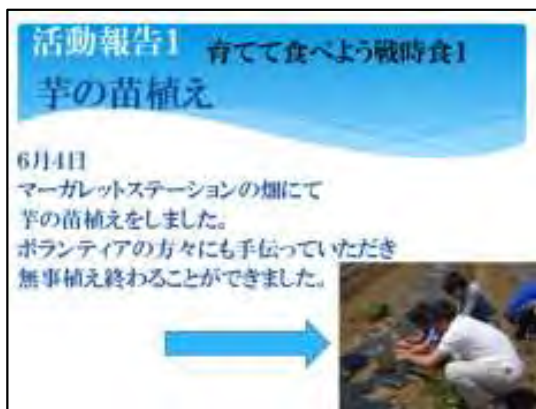
終戦を小学校5年生で迎えられた方を講師に招き、当時の遊びやくらしについて、お話をしていただいた。ご自身が使用されていた教科書やノートなどを触れながら見せていただく時間も設けることができた。



講座の様子

⑬ 「プレゼン力アップ講座」(2月17日)

Microsoft PowerPointの簡単な使い方を学んだ後、ピーススクールで学んだ戦争や平和への思いをスライドにまとめた。



子どもたちの作品



子どもたちの作品

⑭ 「ピーススクール活動報告会」(3月11日)

周年事業の中でピーススクールの活動発表の時間を設け、前回の「プレゼン力アップ講座」でまとめたものを発表した。その後にピーススクールの閉校式を行い、講座を5回以上参加した方に、館長から修了証書及び記念品を授与した。



ピーススクール生 体験報告の様子



終了証書、記念品の授与の様子

(10) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール

○展示期間 平成29年(2017年)11月4日～平成30年(2018年)1月28日

○表彰式 平成29年(2017年)11月4日

○事業概要

次世代を担う子ども達が、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子ども達が描く絵画を通して、広く県民に平和への想いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校5年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中学校23校から513作品の応募があった。

○入賞者

各賞	学校名	学年	氏名
ピース賞(小学校)	草津市立草津第二小学校	第6学年	みやもと りこ 宮本 理子
ピース賞(中学校)	立命館守山中学校	第1学年	おがわ はる 小河 陽
ハート賞(小学校)	草津市立草津第二小学校	第6学年	みやぞの かな 宮園 環那
ハート賞(中学校)	東近江市立船岡中学校	第1学年	やすい ゆうと 安井 優斗

オリーブ賞（小学校）	東近江市立八日市南小学校	第6学年	みやがわ ゆうが 宮川 悠雅
オリーブ賞（中学校）	守山市立明富中学校	第3学年	みなみばやし さくら 南林 桜

※各賞について

ピース賞・・・滋賀県平和祈念館の理念と合致していることや祈念館の事業を推進するうえで効果的な作品

ハート賞・・・制作者の平和への思いを画面に意欲的に工夫し、効果的に表現している作品

オリーブ賞・・・平和への思いを自分らしい発想や構想で表現し、線画や色使いの技能が優れている作品

各賞	作 品	制作者の思い
ピース賞（小学校）		「戦争を忘れる時、戦争がまたおそう」のように戦争を忘れてしまうと平和が保たれないので世界中の平和を続けよう！という思いを表しました。平和を続けたいという願いです。
ピース賞（中学校）		「バトン」＝「受け継ぐ」という意味です。平和を若い世代に受けついでほしいというメッセージを入れました。
ハート賞（小学校）		一羽の鳥が地球をつくるのを守っているという感じでかきました。よい地球をつくっていく、優しい心でつくっていこうという願いをこめました。小さい子も赤ちゃんも大人も優しい心でもって地球を守ろうという気持ちです。
ハート賞（中学校）		戦争を見た時、みんなは泣くと思ってなみだをえがきました。人は失敗から次に進むのでなみだから花を咲かし、平和をイメージしました。未来を少しは考えてから行動することが大切です。

<p>オリーブ賞（小学校）</p>		<p>宇宙にも広がる、ひびきわたる「地球の平和」をイメージして描きました。中央には平和のシンボルの白いハトを描きました。</p>
<p>オリーブ賞（中学校）</p>		<p>青い海のように何の汚れもないところに「平和」は生まれると思います。みんなが「平和」を願う世界になってほしいと思いながら描きました。</p>

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習の支援

○来館学校数 実績

	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	43 校	37 校	5 校	1 校
児童・生徒数	2,466 人	1,779 人	617 人	70 人

○主な方法

- ・ 展示見学
(学校が作成するワークシートや当館職員が作成したクイズラリーを用いての調べ学習)
- ・ 館の職員によるミニ講座
- ・ 戦争体験者によるお話会
- ・ 戦時食体験



来館学習での展示見学の様子



研修室での平和学習

(2) 出前授業

○出前授業実施校 実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学
学校数	96 校	69 校	17 校	8 校	2 校
児童・生徒数	8,664 人	5,287 人	1,390 人	1,511 人	476 人

○主な方法

- ・実物や写真・動画の提示
- ・体験談の提示
- ・資料観察



出前授業での様子（東大津高校）



出前授業での様子（東大津高校）

(3) 地域への平和学習支援

戦後 73 年、「戦後 70 年」とメディアなどで取り上げられていた 3 年前と比べると若干熱も冷めてきたように感じるが、戦争を体験していない大人が増え、「子どもたち」とともに「大人」への語り継ぎが重要になることを踏まえて、公民館や地域の自治会などの団体などからの要望に応じた平和学習支援として、地域への出前授業を実施した。

平成 29 年度においては、36 団体、1,485 人の利用があった。

○主な内容

- ・「滋賀への空襲」
- ・「滋賀にまつわる戦争の記録」
- ・「戦争と滋賀」



地域での出前授業の様子

(4) 資料の貸出による平和学習支援

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するために、実際に手にとって触れるハンズオン資料やパネル、アニメ画入りの戦時体験映像の貸出を行っている。

平成 29 年度は、新たに「戦争体験者証言映像(2017)」を制作し、平成 30 年度から貸出を始める。

学校への貸出の傾向としては、視聴覚資料の貸出が多い。地域への貸出としては、今年度に貸出を始めた「戦争体験者証言映像(2016)」の貸出数が多かった。また、平成 29 年度も夏期にパネルの貸出が集中する傾向にあった。

○資料貸出しの実績

①学校への貸出 26校

区分	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	26校	21校	4校	1校
児童・生徒数	1,140人	494人	645人	1人

②地域への貸出 51件

○貸出資料の種類

① ハンズオン資料…千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）出征のぼり（右写真）

② パネル…Aセット（16枚組）

Bセット（20枚組）

Cセット（16枚組）＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞

写真・ポスター類（64枚）

③ 小学校国語科読み物教材「一つの花」対応セット

④ 視聴覚資料

- ・滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）17本」
- ・小中学校向けアニメ画入りの戦争体験証言映像
「大阪から来た女の子」「滋賀県満州報国農場の若者たち」
- ・2014、2015、2016、2017年度制作の戦争体験者証言映像（DVD版・BD版）
- ・その他、戦争や平和に関するビデオ・DVD



(5) 戦争体験者証言映像の制作

戦争体験者の体験談を記録・保存するとともに、広く県民に戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための映像教材として、戦争体験者証言映像の制作を当館で企画し、委託事業によって制作した。平成 26 年度から事業を開始して、これまでに 3 作品を制作した。引き続き、今年度は 5 名の体験者にご協力をいただいて、『戦争証言 2017』を制作した。本作品は以下の 3 本の映像にまとめている。

また、本作品は平成 30 年 3 月 11 日の『開館 6 周年記念事業』においてお披露目上映会を開催し、好評を得た。

『戦争体験者証言映像 戦争証言 2017』DVD・Blue-ray

「大陸に彷徨う日々」	西川 新五良さん・大西 義生さん (21 分)
「ひたすら任務を信じ」	小川 常三さん・南田 覚さん (20 分)
「滋賀と戦争」	小森 章次さん (17 分)

The image shows the DVD cover and a promotional page for the documentary series '戦争証言 2017'. The cover features a collage of historical war scenes and the title '常軌を失った日々 滋賀と戦争' (Days when normalcy was lost: Shiga and War). The promotional page lists the three films: '大陸に彷徨う日々' (21 min), 'ひたすら任務を信じ' (20 min), and '滋賀と戦争' (17 min), along with their respective narrators. It also includes a '戦争証言シリーズのご紹介' (Introduction to the War Testimony Series) section and contact information for the Shiga Prefecture Peace and Memorial Museum.

戦争体験者映像『戦争証言 2017』チラシ

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度より当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。平成 29 年度においては、新たにボランティア登録の申込があった方を対象とした「ボランティア登録講座」を 2 回開催（5、11 月）し、4 名の方が新たにボランティア登録をされた。平成 29 年度末現在におけるボランティア登録者数は 48 名で、年齢層は 10 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいている。

具体的な活動内容としては、来館者案内活動、戦時食体験活動、手紙等解読活動、紙芝居や寸劇を上演する演劇活動、情報紙「平和の灯」を制作する活動など、各グループの活動が積極的に進められている。また、開館周年記念事業などの館事業への協力なども継続して行われている。

ボランティアの様々な経験に基づいた知識や技術、さらにはその主体的な活動を通して、当館の活動の幅は確実に広がり、多様なものとなっている。今後ともボランティア活動を通して、利用者と積極的に交流していただき、さらには『利用者と館をつなぐかけ橋』の役割を担っていただくことを期待する。また、平和祈念館ではそのためのサポートを続けていく。

○ボランティア活動の紹介

来館者案内活動グループ	館内での来館者との交流や案内をします。
戦時食グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
演劇グループ	平和や戦争をテーマにした紙芝居・人形劇・寸劇を創作し、上演する活動をします。
手紙等解読グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解読する作業をします。
聞き取りグループ	戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
情報紙制作活動グループ	情報紙「平和の灯」を制作します。
大凧づくりグループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧（2 畳）をつくり、平和への願いや当館の活動を PR します。